

## 泌尿器科のほぼすべての領域をカバーしています

悪性腫瘍以外では・・・

- 腎移植に対しても積極的に取り組んでいます。生体腎移植および献腎移植も施行してきました。腎臓内科や心臓血管外科の先生方の協力を得て継続しています。県内で初めての脳死下腎移植も経験させていただきました。生体腎移植においても、腹腔鏡下でのドナー腎採取術を県内でいち早く取り入れています。
- 男性不妊症に対しては顕微鏡を使用した精子採取術や精索静脈瘤のマイクロ手術にも積極的に取り組んでいます。
- 尿路結石症に関しても、細径の軟性内視鏡とレーザーを使用した結石破碎術を実施しています。
- 泌尿器科領域の外傷や尿路感染症による敗血症などの救急疾患に対しても他科と協力して24時間365日の対応に努めています。

2017年3月までは3人体制でしたが、4月からは、当院の研修医であった松本医師が泌尿器科医として加わることになりマンパワーが充実します。

泌尿器科のことであれば当院へなんでもご相談ください。当院はすべての泌尿器科領域をカバーすべく今後も精進してまいります。

PSAが高い患者さんがいらっしゃいましたら、是非当科へご紹介ください。



写真：泌尿器科外来スタッフ

### Information

今年度も緩和ケアに関する研修会を開催します。

6月12日(月)18:45~20:45

第8回北信がん診療・緩和ケア事例検討会  
兼長野赤十字病院第5回緩和/支持医療地域カンファレンス

8月26日(12:30受付開始)・27日(2日間)

北信緩和ケアセミナー(長野赤十字病院主催)  
医療従事者対象 詳細はファックスにてご案内いたします

発行：長野赤十字病院  
がん治療センター・がんサポートセンター  
事務局 がん診療連携課  
(地域がん診療連携拠点病院事務局)

TEL 026-226-4131 FAX 026-226-6114  
E-mail ganshinryo@nagano-med.jrc.or.jp  
WEB <http://www.nagano-med.jrc.or.jp>



長野赤十字病院

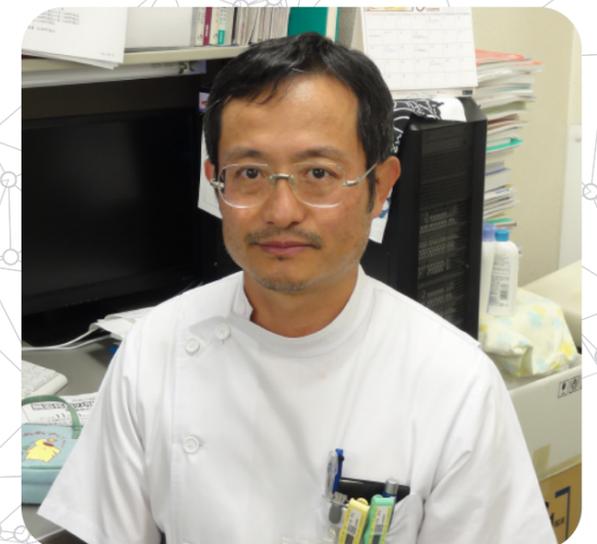
発行 長野赤十字病院 がん診療連携課

がん治療センターだより 第4号 2017.04.28

当院は、地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院として、地域の医療機関と連携をとりながら、診療体制をより良いものにするため日々努力しています。『がん治療センターだより』は、がん診療に関する情報を発信し、当院をより身近に感じていただくため隔月で発行します。さて、第4号は、泌尿器科から『前立腺がん』の話題を中心に、当院で行っている治療のご紹介です。

## 前立腺がんが急増、男性のがんの第1位です 第2 泌尿器科部長 今尾 哲也

前立腺は精液の一部を作る男性固有の臓器で、膀胱から出た尿道の周りを取り囲むように存在しています。また、前立腺の背部には精嚢という精液をためる袋状の臓器が左右一つずつ付いており、精嚢にためられた精液は射精の際に前立腺内の射精管を通して尿道に放出されます。前立腺がんは中高齢者に多くみられるがんでその患者数は年々増えており、2015年の罹患数および2016年の予測がん罹患数(男性)は胃がん、肺がん、大腸がんを抜いて第1位となりました。



### ●がん罹患数予測(2016)

男性	
部位	罹患数
全がん	576,100
前立腺	92,600
胃	91,300
肺	90,600
大腸	84,700
肝臓	29,000

(表の出典：がん情報サービス web サイト  
[http://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/stat/short\\_pred.html](http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/short_pred.html))

### 血液検査によるPSA値測定で 早期発見が可能です

早期の前立腺がんは無症状で、検診による前立腺がんのチェックが広く普及している日本では無症状のうちに発見されることが多いです。ある程度進行してくると血尿、排尿困難、頻尿などの症状がみられることがあります。

まずは、“血液検査でPSA値を測定する”という簡単な検査で、前立腺がんの早期発見が可能です。

## 当院では、ロボット支援前立腺全摘除術を含む最新の医療が受けられます

### ロボット支援装置 <ダ・ヴィンチ>



### 手術療法

がんが前立腺内にとどまっている場合に根治を目的に行います。前立腺と精嚢を一塊にして摘出し、膀胱と尿道をつなぎなおします。以前は腹腔鏡下に行っていた手術ですが、近年では安全に高精度で行うロボット手術が全世界的に普及してきています。

当院でも2013年8月にロボット支援装置(通称ダ・ヴィンチ)を導入して積極的に取り組み、導入から現在までの間で、約300例程度施行してきました。また、ロボット導入以前から、県内で唯一腹腔鏡下前立腺全摘除術を導入しており、約100例程度の実績があります。

2016年5月からは腎がんに対するロボット支援腎部分切除術も県内で初めて導入し、積極的に取り組んでいます。

### ホルモン(内分泌)療法

主に転移のある場合、手術後に再発してきた場合、手術を行えないような場合に選択します。前立腺がん細胞は男性ホルモンの影響で増殖することが知られています。男性ホルモンを抑えることで前立腺がんの進行を抑えるのがホルモン療法です。男性ホルモンは主に精巣から分泌されるので、以前は去勢術(両側の精巣摘出)が行われていましたが、ホルモン療法(薬物療法)により同等の効果が得られるため、近年では去勢術が行われる機会は少なくなりました。

### 抗がん化学療法

進行前立腺がんに対して、ホルモン療法で治療効果が得られなくなった場合に適用となります。日本では2008年に保険適用となっています。抗がん剤特有の副作用が出ることもあるため導入時には入院が必要ですが、導入後は外来通院にて治療を続けていきます。

### 放射線療法

当院では、外から放射線を当てる外照射療法のうちIMRT(強度変調放射線治療)を施行しています。IMRTは、放射線を色々な方向から腫瘍に当てるときに、それぞれの方向からの放射線の量を変化させ(放射線の強さに強弱をつけ)ます。放射線の量を変化させることで、腫瘍の形が不整形で複雑な場合や腫瘍の近くに正常組織が隣接している場合でも、多くの放射線を腫瘍に当てることが可能です。つまり、周囲の正常組織に当たる放射線の量を最小限に抑えながら、がん治療を行うことができます。

基本的には転移を認めずがんが局所にとどまっている場合に根治目的に行われます。転移は認めないが局所で進行している場合、手術の適応にならない場合、患者さんの希望がある場合などに行われます。当院では昨年より放射線治療装置2台体制となり、より多くの症例に対応できる体制が整っています。

## 当科における悪性腫瘍に対する低侵襲な腹腔鏡手術の取り組み

膀胱がんに対する腹腔鏡下膀胱全摘除術や副腎腫瘍などに対する整容性に優れた単孔式腹腔鏡下手術(臍の約2.5cmの切開創から施行)も県内で施行している唯一の施設です。

ここ10年で腹腔鏡手術(ロボット支援手術を除く)は、約500例程度経験してきました。